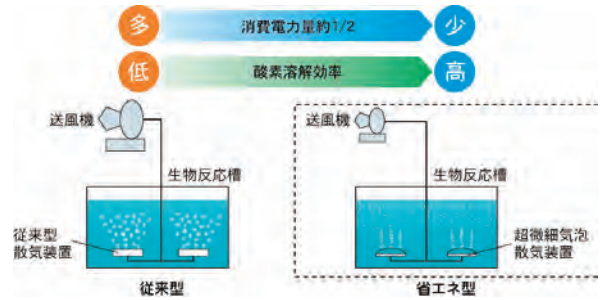


5-3 省エネルギー・創エネルギーの取組み

(1) 超微細気泡散気装置の導入

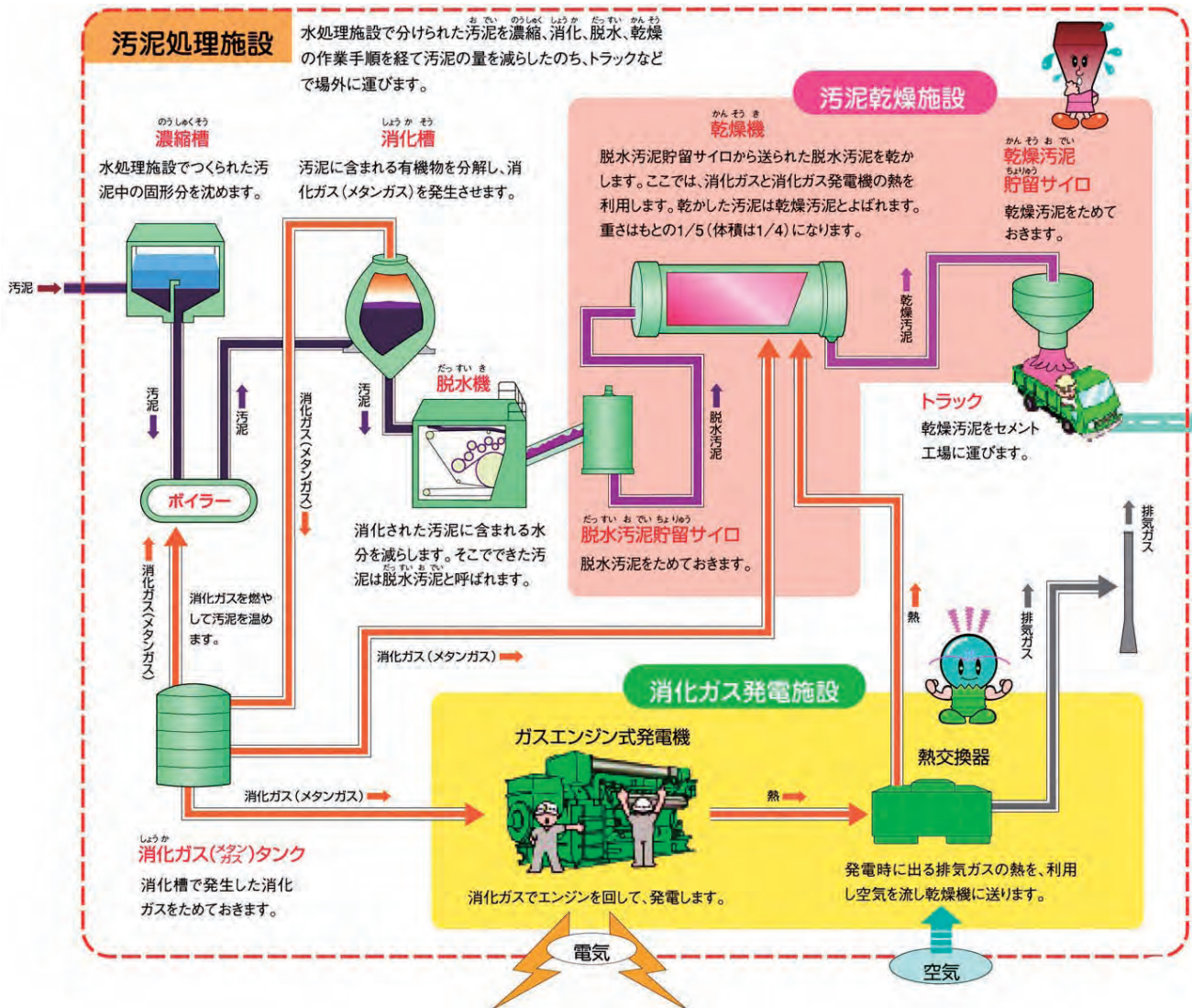
下水の汚れを分解するために必要な空気を送る装置（送風機）の消費電力量は、処理場全体の消費電力量の約4割を占める。ここに省エネルギー型である超微細気泡散気装置を導入することにより、送風機の消費電力量を従来の約半分にすることが可能であり、水処理設備の新設や改築更新に併せて、順次導入している。



(2) 消化ガス発電

汚泥の消化により発生する消化ガス（主成分：メタン）は、再生可能エネルギーとして利用することができる。

木津川流域下水道洛南浄化センターにおける消化ガス発電事業



木津川流域下水道洛南浄化センターでは、濃縮、消化、脱水、乾燥により汚泥を処理しており、発生する消化ガスを燃料とした発電を行っている。発電設備はガスエンジン式であり、出力 495kw のものが 2 基ある。得られた電力量（約 2,000 世帯の電力）は、同センターの消費電力量の約 35% を賅っている。

5-4 資源の有効利用

(1) 下水処理水の再利用

下水処理水の再利用は、都市内における貴重な水資源確保及び良好な水辺空間の創出に寄与するものとして期待されている。

桂川右岸流域下水道洛西浄化センターの高度処理水（約 1,500m³/日）を、長岡京市の勝竜寺城公園の堀に送水し、堀の水質改善を図るとともに、水と親しむ憩いの場を創出している。長岡京市が昭和 60 年度から、アメニティ下水道モデル事業として実施し、平成 2 年度から送水している。平成 4 年度には勝竜寺城公園の整備が完了し、同市のまちづくりの象徴ともなっている。



勝竜寺城公園

(2) 農業集落排水汚泥の堆肥化

農業集落排水汚泥は、処理施設の周辺に農地があり、有効利用しやすい。

亀岡市川東浄化センターでは、平成 21 年度に堆肥化施設を整備し、全汚泥を堆肥として活用している。堆肥は、川東地区農業集落排水処理施設管理組合が策定した利用計画に基づき、地域農業に役立てられ、循環型社会・低炭素社会の構築に貢献している。堆肥は、「エコグリーン」として肥料登録がされている。



堆肥保管庫

